

## 景況実感調査(2017年8月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

### 薄板・表面処理鋼板

- ① 稼働日19日となり、対前月比2日減。夏休み前後日が実質減となり売上、数量共に日足2日分は減少となった。スクラップ高や海外市況も強く、足下の荷動きも少ないながら秋需への期待からか、小じっかり感もある。年度後半には繁忙感も出て来るのではないだろうか。建築関連の人手不足がボトルネックとなっており、資材値上げと職人の手間賃の上昇が複合して、ゼネコンへのコストプッシュを強めている。安売りはできない環境だ。
- ② 一連のメーカー値上げで在庫品は高値に替わり、価格転嫁はもう待たなしではあるが、下期の集購価格下げが発表されたため、値上げ交渉に苦戦しそうである。
- ③ 建築関連の荷動きが悪い。溶融メッキは海外材で値上げ足踏み状態。
- ④ 新国立競技場向け案件など、徐々に荷動きを感じ始めた。秋需が近く入って来ると思われるので、値上げもしつつ対応していきたい。

### 中板

- ① ここに来てオリンピック関連の実需も出てきたようで、特約店筋への引合いも見られ、今後、土木基礎の需要から地上建築への引合いに移行し、年後半から来年にかけて期待出来る。一方、自動車メーカーの支給価格値下げの報道もあり、他の産業分野への表面的な価格連動が懸念されるとともに、高炉等の値上げにもかかわらず、今のところ市況に顕著な盛り上がりが見られないなど、不安な点もある。

### 厚板

- ① ようやく厚板も建産機も建材も、概ね良好になり、秋口以降は建築、土木関連需要はさらに回復するとみられている。

### 开形鋼

- ① 6、7月と低迷気味だった引合い、出荷が暑さにもかかわらず8月に好転した。これは、9月以降の景況の魁ではないか。

### II形鋼

- ① 8月の倉出しは日数減でマイナス。荷動きに大きな変化はないが、需要はこれから出件されるので、メーカーの値上げもあり、価格転嫁していく。
- ② 市況上げの足並みが揃ってきた。これを続けるには在庫の需給バランスをタイトにする必要がある。

### 異形棒鋼

- ① メーカー販価の値上げにより在庫販売市況も9月より本格的に上昇。8月の荷動きは低い水準ながら、予想より良かった。
- ② 9月も店売りは動きがあまり良くない。メーカーは大きく単価を上げて来ている。店売りも上げざるを得ない。

## 平鋼

- ① 建築関係に少し動きが出てきたが、まだまだこれから。メーカー値上げに伴い、価格転嫁も早急に進めていく。前回、価格転嫁が半ばで終わってしまったため、今回はしっかりと転嫁していきたい。このまま荷動きが改善してくれば、環境が整うのではないかな。

## 車体量用鋼

- ① 店売りは低調であるが、建築物件が徐々に増えて来ていると感じており、これはしばらく継続するのではないかとと思われる。ただ、利益状況は悪化しているため、値上げは急務である。
- ② 8月の受注量は対前年比、対前月比ともかなり悪い数字だった。製品により、かなりのバラツキがあり、相変わらず先が読めない状況。

## 鋼管

- ① 日当たりの出荷量は7月と変化ないが、盆明け後は例年に比べて勢いに欠けている。市況は、価格転嫁に取り組んでいるため強含みで推移している。

## 構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連部品、建産機関連及び工作機械などは、全般に堅調な動きが続いている。特に建設機械は中小型機種の下堅さに加え、海外向けの大型機種も増加傾向となっている。店売りの動きは、メーカーの高操業と温度差があり、盛り上がりや欠く状態で推移している。市況は、横這いで推移している。
- ② 先月に比べて稼働日数が少なかった分、数量も減少している。数ヶ月、同じような動きが続いている。

## 鋼材全般

- ① 7月と比較すると8月の荷動きの方が良かった。収益面は、母材単価が上がって来て悪くなっている。9月以降の見積りも増えて来ているが、具体的に動き出すのは10月以降と思われる。

## その他

### <スクラップ>

- ① スクラップ価格は8月前半に高騰したが、一服感あり。9月にかけては様子見状態が続くのではないかな。

### <建機レンタル>

- ① 建設業が繁忙期に差し掛かることにより、トラックの入出庫が増加すると見込める。

### <金属表面処理加工>

- ① 8月は紐付き、物件物の扱い量が10%減となったが、スポットの扱い量が増加し、前月比5%減。ただし、物件物で付加価値の高い加工があり、売上増。9月もスポットの引き合いが活発なことから、成約に向け準備し、安定操業を維持できるようにする。亜鉛の高騰によりジンク系塗料が値上がりし、コストアップとなっている。